慶南大学校における国際シンポジウム報告

専修大学商学部助教授　生田目　崇

Report on the International Symposium at Kyungnam University

Senshu University, School of Commerce　Takashi Namatame

専修大学商学研究所では，かねてより商学分野の研究範囲および分野の拡充・拡大を目指しており，その一環として，2005年に韓国・慶南大学校慶南地域問題研究院と組織間協定を結んだ。慶南大学校は韓国南部，釜山より車で約1時間ほどの馬山市にあり，文理の両方の学部を備えた総合大学である。地域問題研究院は，特に馬山市圏を中心とした，地域諸問題解決のための機関として，学部とは独立に設置されており，産官などからの受託研究を広くおこなっている。

本協定では，それぞれの国家発展のために大学がすべきこと，また，地域との共生の観点から大学が地域に対してどのようにアプローチすべきかについて，両機関共通もしくは個別の問題について議論しあうような交流活動を目指している。

この協定を足がかりに，研究ならびに人的交流を行っており，情報交換も兼ねて年に一度のシンポジウムを開催してきた。2005年度は専修大学神田キャンパスにて両機関の関係者を集めた国際シンポジウムを開催した。2006年度は5月19日

図表1
シンポジウムの様子

（金）に，慶南大学校にて国際シンポジウムが開催された。この国際シンポジウムは，両研究所からの研究報告に加えて，慶南大学校が協定を結んでいる中国人民大学からの報告も同時に行われ，前回よりさらに大規模に開催された。専修大学商学研究所からは上田和勇所長，姜徳洙特別研究員ならびに生[redacted]目が出席した。

当日は慶南大学校院長室にて報告者同士の紹介を行い，続いて以下のプログラムでシンポジウムが開催された。

開会の辞
　成　泰鉱（慶南地域問題研究院　院長）
祝辞
　朴　在圭（慶南大学校　院長）
基調講演
　成　炅隆（国家均衡発展委員会　委員長）
第1報告
　全　夏成（慶南大学校経営大学院　院長）
第2報告
　李　義平（中国人民大学政治経済学科　教授）
第3報告
　上田　和勇（専修大学商学部　教授）
総合討論
　李　相天（昌原革新 Cluster 推進団　団長）
　李　相于（慶南大学校 Nano 工学科　教授）

開会挨拶，祝辞に引き続き，基調講演が行われた。基調講演をおこなった成炅隆氏は韓国・国家均衡発展委員会に所属しており，日本ならば，いわば経済産業省の第一線で活躍している国家官僚というべきポジションにある。現在，韓国でも地域格差や地域発展に関する問題が大きく取りざたされており，本講演では，韓国の現状，特に慶南地域の地域問題の現状や，釜山などの近隣都市，および首都ソウルとの関わりについて行政の立場からの興味深い話があった。また，地域における大学に期待される役割についても論じられた。

続く第1報告では，慶南大学校経営大学院の全院長から地域社会にける大学の役割について報告された。地域社会と大学が共同発展のために「産・官・学」協力体制は非常に重要であるが，現時点ではその協力体制がやや形式的である。したがって，その体制の見直しが必要であると主張した。さらに，地方大学が地域社会の中で在立基盤を確立するためには，地方自治体と連携する協調関係の構築が必要であると主張した。

第2報告では，中国人民大学政治経済学科の李教授から，中国経済変革と中国大学の変革というタイトルの講演が行われた。中国は，韓国や日本と異なり，いまだ人口増加が続いており，また国により進められている開放政策が，国民，特に都市部の生活を大きく変えており，地域のさまざまな活動に対する大学のあり方の変化や将来について語られた。

第3報告は商学研究所上田所長からは，地域社会における大学，研究所の役割を検討するということは，「社会と大学，研究所の関係」を検討することであり，その中心は「社会が大学や研究所に期待している何か（社会的価値）を継続的に創造していくこと」となる。そのためには，①社会が大学や研究所に期待していることは何かを明確にし，②それをどういう形で価値創造していくか，の2点が少なくとも検討されなければならないと論じた。特にリスクマネジメントの立場から，日本のように都市部への集中化が進み，かつ地震などの自然災害が想定される状況下において，緊急時に備えてどのような対策をとるべきか，また，

図表2
上田所長の講演

図表3

新聞記事

마산쇠퇴·지방대 입학감소 원인은…

지역사회 지방대 역할 경남대서 심포지엄

19일 경남대에서 열린 '지역사회와 대학의 역할'이라는 주제로 열린 심포지엄에서 참석자들이 발표 하고 있다. /김승권기자/

지역사회와 대학이 공동발전하기 위해서는 현재 지자체와 지방기업, 대학 등이 맺는 형식적인 산·관·학 협력차원에서 보다 새롭게 변모해야 된다는 주장이 제기됐다.

경남대 경영대학원 전하성 원장은 19일 경남대 대학 본관 1층 대강당에서 열린 '지역사회와 대학의 역할'이란 국제학술 심포지엄'에서 "산·관·학이 형식적인 교류협약으로 실질적 교류가 부족하다"며 "이에 산·관·학이 일체화돼야 한다"고 주장했다.

전하성 "산·관·학 실질적 교류 부족 때문"

성경륭 "인재유치·창조 역량 극대화 필요"

전 원장은 "현재 마산은 주력산업이 쇠퇴하고 인구가 유출되는 등 어려움을 겪고 있고, 지방대 역시 지속적인 입학자원을 감소로 지정하고 있다"며 "이같은 난제를 해결하기 위해서는 관학협력 강화 및 인센티브제도도입이 필요하다"고 말했다.

또한 "대학의 고급인력, 첨단시설 및 정보, 세계적 네트워크 형성은 지역혁신체제(RIS)에 있어 매우 중요한 요인"이라며 "대학과 산업이 연결되고 이를 지원하는 지자체와 협력관계가 공고할 때 산·관·학 일체화가 확고하게 구현될 것"이라고 강조했다.

기조연설자로 나선 성경륭 국가균형발전위원장 역시 "지역발전을 위해서는 우수한 인재를 유치·보존하는 지방대학의 역할이 중요하다"며 "지금은 창조적 경제시대로 각 분야의 인재들을 모으고 기업을 유치, 지역의 창조역량을 극대화해야 한다"고 설명했다.

성경륭 위원장은 이어 "침체 발전과 인재유치를 위해서는 먼저 5가지 연고인 지연·혈연·학연·고연 등그 ·업연 등에서 벗어나야 한다"며 "이질적인 요소에 대한 관용적인 태도가 재능있는 외부인들을 불러 모을 수 있을 것"이라고 덧붙였다. 이날 김태수 경남대 중국학부 교수와 심전회용 [illegible] 일본전수대학 상학부 교수 등이 지정토론자로 나서 의견을 피력했으며 이상천 경남대 공과대학 교수와 반대편 이상천 창원전신 클러스터추진단장이 종합토론을 펼쳤다.

한편 지방선거를 앞두고 성경륭 위원장이 경남도가 혁신도시와 준혁신도시로 발표한 지역 신주 경상대와 마산 경남대 을 잇따라 방문, 그 배경에 관심이 쏠렸지만 성 위원장은 "우연히 맞아 떨어진 일치"라고 답변 확대 해석을 경계했다.

김정민기자

注：慶南新聞 2006年5月20日号より転載。

そのような問題に対して大学がどのようにアプローチすることができるか，またすべきかについて論じられた。

これら各大学からの事例の報告に続いて，昌原革新 Cluster 推進団の李団長ならびに慶南大学校李教授による総合討論がおこなわれ，各国の地域社会の差異および大学に期待されている産学関係について議論された。都市生活，大学がさらに具体的内容についての報告がなされた。

本シンポジウムについては学内外から多くの関心が寄せられ，当日は100名を超す参加者を得た。また地域の新聞社の取材も行われた。図表3は翌5月20日の慶南新聞に掲載された，本シンポジウムの様子を伝える記事である。

前回，2005年のシンポジウムでは，両研究機関の置かれている状況や，現在の研究内容，および抱えている問題についての紹介が中心であったが，今回のシンポジウムでは，事例を含めてより実際的な内容についての報告が中心となった。これは，互いの活動が進んだこととともに，両機関の情報交換を含めた連携によるシナジー効果が現れつつあることを示しているのではないだろうか。

専修大学と慶南大学校は，日本と韓国という人口動態や都市集中化など，国家レベルで似通った背景をもっているだけでなく，釜山や東京という巨大大都市を控えた周辺中核都市の中にキャンパスを持つという共通の特徴を持っており，類似した問題意識を多くの面で持つ。これからも，本協定による研究交流を積極的に活用することで，地域問題に対しても共通のアプローチも期待でき，また，地域社会と大学のより深い連携が行えることができればと思う。